

第6回融合委員会の目的：「京都市基本計画第2次案の検討」

成果の概要

当日は、京都市基本計画第2次案の検討が行われました。
具体的には、＜その①＞第5回融合委員会における議論を踏まえて修正された計画の位置付け、背景、＜その②＞第1次案に対するパブリック・コメント等を踏まえて修正された都市経営の理念、未来像、重点戦略、＜その③＞各部会で議論された政策の体系及び行政経営の大綱、について審議され、全体として概ね了承されました。



今後は、当日出された意見を踏まえ、文言等を修正し、第2次案が取りまとめられる予定です。
その後、9月上旬に第2次案が公表され、未来の担い手・若者会議U35の支援を受けながら、パブリック・コメントが実施される予定です。

実施概要

日時 平成22年8月9日（月）午後5時00分から午後7時30分まで
場所 京都ホテルオークラ 3F「翠雲の間」
出席者 尾池会長、浅岡副会長、宗田融合委員会委員長、平井融合委員会副委員長（12名）乾委員（うるおい部会部会長）、梶田委員（うるおい部会副部会長）堀場委員（活性化部会部会長）、西岡委員（すこやか部会副部会長）塚口委員（まちづくり部会部会長）、上村委員（まちづくり部会副部会長）新川委員（未来の京都創造研究会座長）、松山委員（未来の担い手・若者会議U35議長）（事務局）由木副市長、西村総合企画局長、柴山政策企画室長、大田京都創生推進部長

当日のプロセス

開会
本日の議事の説明

議事1
パブリック・コメント等の
総括及び名称の審査方法

議事2
＜その①＞
・ 構成
・ 位置付け
・ 背景
・ 推進
の検討

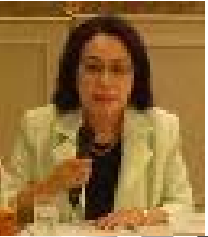
＜その②＞
・ 都市経営の理念
・ 未来像
・ 重点戦略
の検討

＜その③＞
・ 政策の体系
・ 行政経営の大綱
の検討

議事3
第2次案に係るパブリック
コメント

閉会
尾池会長、由木副市長から
総括

＜未来像 「学びのまち・京都」について＞



ハンブルグ宣言をはじめ、世界的には、我々市民が生涯学習の機会を創出していく責任があることが強く打ち出されている。

＜未来像 「日本の心を感じる国際都市・京都」について＞



「日本の心」とは何か。京都に来て何を感じてもらいたいのか。

精神論ではなく、世界に冠たる歴史都市として、パリやローマ等に匹敵するくらい歴史を大事したいということ表現している。



しっかりした定義をするよりも、日本人として失いたくないという願いを京都が繋いでいく、という目的のために抽象的・曖昧な表現にしておいてはどうか。

都たるべき自然条件を備えてきたからこそ、京都は日本の中心として栄えてきた。日本の心と言うことに問題はないと思う。



＜重点戦略 「地域コミュニティ活性化戦略」について＞



スモールオフィスは書かないほうがよい。具体的な話を書くならば、「住民参加のさらなる促進」、「地域組織や市民組織と行政の連携の仕組みづくり」、といった表現が適切。

＜重点戦略（重点事業）の進め方について＞



優先順位をつけて取り組むことが非常に大切。リーディング・プロジェクトを残してもいいのではないか。

基本計画の策定後、象徴的な事業については、行政の中で継続的に議論される、と理解している。

ターゲットを絞ることは必要。今後、重点事業を決めていくということを、基本計画に明記すべき。



計画の位置付けにも、「この基本計画は戦略的、意欲的なもので、更に内容を加えていく」という文言を入れるべき。



＜政策の体系について＞

まちづくり部会では、8つの政策分野について活発に御議論いただき、本日の資料で概ね御意見を取り入れて修正されている。



＜行政経営の大綱について＞



行政の仕事の進め方も協働型に変えていく、政策検討の早い段階から情報を共有することが必要。将来的に財政バランスをとるための具体的な方法論・手法を記述すべき。